

第3回 日沿道新潟県境区間 I C 周辺土地利用基本計画策定検討委員会

会議録概要

- 日 時 平成29年3月28日(火) 午後2時00分～午後4時00分
- 会 場 鶴岡市役所温海庁舎 6階 大会議室
- 出席委員 伊藤彦市委員長、斎藤徹委員、佐藤丈典委員、佐藤佐次右衛門委員、飯塚厚司委員、五十嵐正信委員、鈴木伸之助委員、佐藤美代子委員、加藤淳一委員、高橋広司委員
- アドバイザー 藤原久氏、石川修一氏(相沢一彦氏代理)
- 市側出席者 建設部長、温海庁舎支所長、建設部参事、都市計画課長、農山漁村振興課長、観光物産課主幹、温海庁舎総務企画課長、温海庁舎産業課長、温海建設事務室長、都市計画課長補佐、都市計画課管理係長、都市計画課専門員、温海建設事務室長補佐、温海庁舎産業課観光商工主査、温海庁舎総務企画課コミュニティ防災専門員、温海建設事務室専門員
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 0名
- 次 第
1. 開 会
 2. あいさつ
 3. 委員等紹介
 4. 報告
 - 1) これまでの検討内容について
 5. 協議
 - 1) 基本計画素案について
 - 2) 今後の進め方について
 6. その他
 7. 閉 会
-

1. 開 会

- ・建設部参事による開会宣言

2. あいさつ

- ・建設部長によるあいさつ

3. 委員等紹介

- ・出席者名簿による委員等紹介。
- ・12名の委員のうち、10名の委員が出席。

4. 報告

(1) これまでの検討内容

〈事務局による説明〉

5. 協議

(1) 基本計画素案について

協 議

【事務局】

- (1) 基本計画素案について：資料2-1（概要版）とスライドにより説明。

【委員】

- ・現在、道の駅「あつみ」「しゃりん」で、どの程度の売り上げがあるのか。

【事務局】

- ・年間3億5千万円、レジカウントで30万人ぐらいである。

【委員長】

- ・概要版P-3にある防災機能の「高速道路本線に上れる避難路」とはイメージ的にはどういったものなのか。

【事務局】

- ・高速道路自体が高盛土で、現況道路からだいたい10mくらい高くなるため、津波が来たときに道の駅に避難して、道の駅から高速道路の上に避難する階段というものをイメージしている。そういった事例もこれまでやっているところがある。通常時は鍵をかけておくのだが、津波が来たときには、鍵をあけて高速道路上に避難するという想定である。

【委員】

- ・概要版P-3に「生活の利便性の向上を図る設備の検討」という表現がされているが、これはどういったイメージなのか。

【事務局】

- ・本編資料 P-10 参照。高速バスや路線バスの停留所、ATMの設置といったこと、他にもいろいろあると思うが、生活の利便性向上に関する設備の設置について、関係する方々と協議しながら、検討を進めて参りたい。

【委員】

- ・「地場素材を活かした新たな商品開発とブランド化」とあるが、これはどのようにして進めていくのか。

【事務局】

- ・現段階では、まだ具体的なものはないが、来年度以降に管理運営計画の検討に着手し、オープンまでにまだ時間があるので、地域の生産者の方々や、地元の方々と意見交換を行い、道の駅の専門家のアドバイスもいただきながら、どういった商品がいいのかということは今後検討していきたい。

【事務局】

- ・補足すると、今回計画している地域には既存の道の駅「あつみ」「しゃりん」があるので、新しい商品開発やブランド化することについては、既にプラットフォームがある地域なので、今の既存の道の駅をひとつのステージとして、地域の皆様や、先ほど話のあったような様々な試みなど、そこで商品を実際に試作したものを販売するなど、試作品のマーケティングができるだろうと思っている。
- ・また、地域の方々に限らず、鶴岡市内の業者だとか、場合によっては、漁協、農協や市民組合等と協力をしながら、そういった商品開発を、ここではオープンしてからするのではなくてオープンまでにいろいろとすることが出来るメリットがあると考えている。

(2) 今後の進め方について

【事務局】

- (2) 今後の進め方について資料3により説明。

【委員】

- ・今日、これを了承すれば、我々の役割は終了ということになるのか。

【事務局】

- ・役割が終了と言うよりは、ひと区切りというふうに考えている。
今、説明があったように、今後、ハード部分、ソフト部分、両方を平行して進めていくことになろうかと思う。今回の委員会では、基本計画の策定といった部分になるが、完成まで期間があるし、今後の検討事項についてご意見を伺わなければならない機会もあると思う。そういった際には改めて、名称等は変わるかもしれないが、また皆様方にお集まりいただき、ご意見、ご提案等をいただくといったことを考えていきたい。ひと区切りというふうにご理解いただきたい。

【委員】

- ・隣の山北地域にも同一形態の施設ができるという話もあったが、いつごろ出来そうで、ど

のような部分で差別化していくのか。

【事務局】

- ・事務局としても、そこは課題であると考えており、村上市の行政サイドとは情報交換をしている。村上市の計画では、既存の道の駅「朝日」の拡充構想や、山北地域の府屋IC近傍に道路休憩施設と言うか、パーキング的な施設を想定しているということは伺っている。府屋ICから鼠ヶ関ICまでは、開通すれば車で3～5分ぐらいの距離のため、両方が同一形態の、例えば地域の産直施設的なものを造るということは、かなり厳しいだろうというふうに思っている。
- ・鶴岡市側の考えではあるが、鼠ヶ関のほうを、どれだけ魅力あるものを計画していくかといったことで、村上市との連携、特に鼠ヶ関地域にはそもそも山北地域と交流があり、今も観光面では、いろいろな繋がりと言うか、協議会があると伺っている。こちら側が、村上市の山北地域にとってもWINになるような施設をまずは提案していかなければならない。そのなかで、両者合意できるような部分で、鼠ヶ関側で先行して施設整備を行っていく中で、できれば山北地域の皆様からも参画できるような体制というのも考えていかなければならないと考えている。だから、今回、基本計画がまとまった時点で、あらためて村上市に対して、鶴岡市の方ではこういうふうに考えていきたいという事を説明していきながら、まずは行政レベルで調整を図っていければと考えている。

【委員長】

- ・ここでアドバイザーの方々より一言、お願いしたい。

【アドバイザー】

- ・気づいた点を何点か申し上げたい。
- ・始めに、道の駅は登録制度である。各市町村等から申請されたものを、国が審査して承認し、そして登録するという制度である。今、ひとつの例で、鶴岡市が新たな道の駅を計画している段階で、同じように村上市の方でも計画があるといった場合に、まず、承認するうえで本省のチェックが入る。その時に、我々が進めているものというのは、スーパーではないので、早い者勝ちということはない。仮に、鶴岡市の方の計画が定まってきて、登録したいといった場合に、隣との競合はどうなっているかということで、その辺の整理というのは問われる。そのため、今現在どんどん道の駅が増えている中で、やはり大まかな距離、例えば10km以上、20kmそういった距離があれば競合しないだろうという、大まかな距離感的なものが当然ある。後は、各自治体が整備しようとしている道の駅の基本的なコンセプトをどのように持っているのかということが非常に大事である。その辺のコンセプト自体で、距離は近いが競合しないなど、先ほども指摘があったようにお互いの計画の整理が必要になってくる。
- ・2つ目に、資料の概要版P-10左下にあるように道の駅は、「単独型」、「一体型」という言葉を聞かれたことがあるかと思う。庄内地方では道の駅「鳥海」、道の駅「あつみ」のような形で、多分、元々あった施設を利用するようなケース、もしくは、先行して早くやりたいということで、24時間使えるトイレや道路情報コーナーなど道の駅の機能を備えた全てを町や市で整備する場合は「単独型」と言っている。「一体型」というのは、駐車場や

トイレなど最低限必要な休憩機能を国が整備して、その近くに自治体が地域振興施設を造って、それを一体的な道の駅とする場合を「一体型」と言っている。

- ・国が道の駅の整備と一緒に付き合うためには、予算要求が当然必要になってくるので、道の駅として造ること自体、いろいろな条件のもとで、隣接する道の駅の計画と競合していないかどうかといったことも含めて、いろんな角度から整理が必要になってくる。そして、それを認めてもらって初めて、我々の国側が整備する道の駅に関する予算が付けてもらえるので、その辺を含めると、先ほどスケジュール的に日東道の開通の時期という、ひとつの目安でスケジュールを示しているが、市の方で、どんどん計画を進めてもそれはそれでいいのだが、我々が遅れないように予算要求をして、同じ時期に我々の施設を完成させるためには、同じ歩調で進める必要があるので、今後とも情報を入れていただいて対応していきたいと思っている。そのため、少なからずいろいろ整理していく課題があるのも事実なので、その辺をどうしたらいいのかというのを、県の方も含めて勉強させていただければと思う。
- ・概要版の説明の中で、少し修正していただきたい点がある。概要版 P-11 の左側にある「道の駅オープン想定時期」について、「あつみ温泉 I C～鼠ヶ関 I Cの開通と同時期」ということで、事業化から概ね10年として「平成35年度」と記されているが、逆に「あつみ温泉 I C～鼠ヶ関 I Cの開通時期：平成35年度（想定）」と、逆にそちらの方に想定文字をつけていただくと大変ありがたいと思っている。
- ・朝日温海道路は平成25年度に事業化しているが、山形県区間約6.7kmのうちトンネルが6本ほどあるので、トンネルの連続になり、大変予算を要するため、その辺の予算の付き具合でかなり開通時期が左右されることがあるので、この辺、ひとつ留意していただきたい。

【アドバイザー】

- ・概要版の P-3 で、「施設の主要機能（1）道の駅へのアクセス」道路ということで述べられている。こちらについては、今の計画について、県で管理する国道345号ということで隣接しているわけだが、今後こういった施設について、県としてもスムーズに出入りできるようにしていきたいので、この辺は施設の配置も含めて、いろいろ協議の方に参加したいと思っている。

【委員】

- ・先程の説明の中で「日東道」と言ったが、「日沿道」との使い分けはあるのか。

【アドバイザー】

- ・事業路線としては「日沿道」。開通した暁に「日東道」というのが開通後の呼び名である。日沿道は「日本海沿岸東北自動車道」、日東道は「日本海東北自動車道」という略称で言っていて、事業名称と完成後の供用名称の使い分けをしている。

【委員】

- ・概要版の P-8 に整備・運営方式が提案されており、整備については公設民営、運営については事業組合方式と、この部分で地元の方々がどのようなご意見があるのか、地元自身がこのような方式がいいのかどうか、判断しがたいところがあるので、その辺のご意見を伺

いたい。

【委員長】

- ・今までの会議の中でも、鶴岡市の南の玄関口という、温海だけにとらわれず、鶴岡市全体という感覚で話もされてきた経過もある。今日参加された委員の方々はどのように考えているか。率直な意見をいただきたい。

【委員】

- ・私の考えでは、客商売の人たちが責任を持ってやるべきで、市から言われてやるのだと責任がなくて、時間が来ればもう終わってもいいというような感じでは駄目なので、自分たちの利益を追求できるような各店舗、うちだったら、魚屋さん、個人的に入れて、商売をやっていた方がいいんじゃないかなと思っている。それだけだとあれなので、鶴岡市は食文化でいろいろやっているの、ブランドを推し進めながら、庄内のいろんな、この辺じゃなくても、羽黒とかの地域の特産物も全体的に、南の玄関口、鼠ヶ関からという事なので、庄内全域のものを取り入れてやっていけたらいいのかなと思っている。

【委員】

- ・運営組織について、漠然としていて、まだイメージが出来ないが、地元としては、出来る範囲内で協力していきたいと思っている。

【委員】

- ・道の駅「あつみ」「しゃりん」をベースにした中でやって行かないと、各々の専門職では、各々良いもの持っているが、こういった大きな、販売する、休憩する組織を運営するのは、ノウハウ的に専門にやっている方でないと、管理運営は非常に難しいと思う。
- ・その中に入って、店舗として運営するにはそれぞれの力はあるだろうと思うが、そういったことを思うと、組合組織も自分がやりますといっても、資金力がないとそこに参入できない。そのへんが難しい。資金力がある所であれば手を挙げて参画できるが、やりたいけれどもやっぱり、入っていくには組合組織だとそれなりの資金力が必要だと思うので、私が思うには、「しゃりん」というプロがやっている所があるので、それを主体とした中で管理運営をある程度展開していったほうがいい気がする。

【委員】

- ・私は今、産直施設をやっているのだが、やはり、出す人たちが責任を持って品物を売るということをやった方がいいのではないかと思うので、テナント方式と組合方式を合わせたようなやり方が出来ないかなというふうに思っている。

【委員】

- ・私は直接今の件には関係ないが、全体的に思うことは、鼠ヶ関というのは、東北の玄関口でもあり、山形県の入り口でもあるので、地域というものにとらわれずに、全般的に秋田、青森まで行くまでの大きい目で見ると参入した方がいいと思うし、資金力という話も先程あったが、力のある業者があまりこの辺にはいないので、力のある人たちからご協力を得て、そして地域のもを販売するような形で行けばいいと思っている。
- ・そして、テナントに入る、雇用創出という所では、そこに入る人たちの従業員の教育というか、東北の入口、鼠ヶ関の入口、鶴岡市の入口であるので、全国の人たちから喜んで

らえるような、売り手の接客の態度とか、皆で教育をして、良い店舗、道の駅にしていけたらいいと思う。

【委員長】

- ・以上、整備運営方式について、本日出席の委員の皆様から意見をいただいたが、他に意見等あるか。

【委員】

- ・私は概要版 P-1 の土地利用基本方針の中で、いつも「あつみ温泉 I C 周辺」は「あつみ温泉への誘導機能の強化」こればかりが載っていて、誘導機能強化というのは、どの辺を指してどういう形でなるのか、少し概要を例にして示していただきたい。

【事務局】

- ・今回、基本計画では具体的な対応策については、明記していないが、インターチェンジが新しくできた暁には、例えば国道の方からあつみ温泉の方へ誘導するような看板だとか、新しい道の駅の中で、あつみ温泉をアピールするような P R 映像など、そういった取り組みをこれから検討していければと思っている。

【委員】

- ・鼠ヶ関で下りて、あつみ温泉に来ていただければありがたいが、道の駅で下りてまた上ってあつみ温泉というのもまた大変なことで、通り過ぎることにならないのかという心配もある。

例えば、海岸線、今の“しゃりん”の部分も含めて、やはり少し海岸線を売りにするとか、いろんな手法があるかと思うが、今後その辺もよろしくお願ひしたい。

【委員長】

- ・他に意見が無いようであれば以上で議事を終了する。
- ・今回、基本計画策定ということで、素案が出来て、基本計画に沿ってハード面については、粛々と進められると思う。しかしながら、せっかく造ったハードに対して、心を入れていかなければならない。魂を注入しなければならぬ。そのソフト面について、これからがせっかくの多額な投資をするわけであるので、皆さんといっしょに魂を注入していかなければならない。そう思っているのでもよろしくお願ひしたい。